

# 先住民と森林管理：インドネシアにおける慣習的な森林政策の実施に対する 地域住民の認識

アンダリニ セルティアンティ

キーワード：社会林業、先住民、慣習的コミュニティ、認識、森林管理

## 1. 研究の背景と研究目的

社会林業とは、コミュニティ林業としても知られており、森林管理に地元住民を参加させるという概念である。インドネシアにおける社会林業政策では森林伐採と土地の劣化を軽減することを目指しているが、同時に森林に依存するコミュニティに社会経済的利益を提供している。インドネシアの社会林業計画の1つであるフタンアダット *hutan adat* (慣習法により管理された森林) は、先住民と慣習的コミュニティを特に対象としている。先行研究では、森林やコミュニティにとっての社会林業の利点とその限界が示されてきた。しかしながら、さまざまな利害関係者、特に慣習的コミュニティのメンバーが、その政策をどのように認識しているかについての研究は限られている。本研究は、ジャンビ州 *Jambi* のランタオケルマス村 *Rantau Kermas* の慣習的コミュニティの事例研究を通して、インドネシアの慣習的森林政策の実施における利害関係者の認識を調査することを目的とする。

## 2. 研究方法

本研究における調査方法としては、質的および量的データの収集を採用し、政策の一般的な特徴とコミュニティの認識に関する情報を得るために、55世帯に世帯調査を実施した。また、重要な役割を果たす関係者（キーアクター）の認識を調べるため、コミュニティのリーダー、NGO および政府関係者を対象としたフォーカスグループディスカッションおよび個別インタビューを行った。また、本研究では、Maryudi 他 (2012) により提起された基本的評価方法に基づき、慣習的森林政策の成果を、経済・社会・環境の三つに分類した。

## 3. 研究結果と結論

調査の結果、利害関係者は政策に対してさまざまな期待や認識を持っており、それが慣習的森林政策の実施に対する満足度に影響を与えていることが明らかとなった。コミュニティメンバーの大多数 (87.2%) は、慣習的に管理された森林の保護につながる本政策に対する現在の実施状況への肯定的な認識と高いレベルの満足 (80%) を示した。しかし、本政策は森林保護の取り組みを奨励しつつも社会経済的利益を地域社会に提供するためのものであることから、キーアクターは現在の実施状況に満足していないことも明らかとなった。本研究の結果は、政策に対する認識・理解においてコミュニティメンバーとキーアクターの間に食い違いがあることを示している。そのため、利害関係者間で政策に対する共通認識を涵養し、政策の成果をより適切に評価するための具体的なガイドラインとスケジュールを設定する必要があるといえるのではないだろうか。